



社会的投資として次世代を担う 子ども達を応援してください！

寄付でのご支援のお願い

法人サポーターになる (年間一口5万円～)

エデュケーションエーキューブの支援活動の基礎となる、奨学金制度を支える仕組みです。
法人サポーター3口で、学校に通えない子ども1人を1年間支援することができます。

新しい教室のオーナーになる (一教室：300万円)

エデュケーションエーキューブでは、オルタナティブスクールを100拠点展開することを予定しています。300万円で学習拠点を1か所増やすことができます。(1か所あたり約50名の生徒を支援できます。)
開設場所については、双方協議のうえ決定いたします。

～特典～

01 WEBサイトに
ロゴ掲載

02 年次報告書の送付

03 事業報告会へ
ご招待(東京・福岡)

04 「2030 SDGs」を使った研修(15万円相当)の割引提供

「2030 SDGs」は、SDGsの17の目標を達成するために、現在から2030年までの道のりを体験し、我々一人一人がなにをすべきか考えるゲームです。企業、学校、自治体などでSDGsへの理解を深める目的のほか、新規事業創出や社員のキャリア形成などでの目的で利用されています。

寄付以外のご支援のお願い

他にも「企業・団体内で募金活動を行う」「社内での講演会・勉強会の企画をする」「フリースクールの子ども達とともにイベントの企画をする」などの多様な形でのご支援をお待ちしております。



誰でも、いつでも、どこでも、教育の機会を

エデュケーションエーキューブはEducation(教育)について3つのAを実現しようという思いから誕生しました。
eラーニング等IT技術を活用することにより、Anyone(誰でも)、Anytime(いつでも)、Anywhere(どこでも)良質な教育の機会が得られる環境をつくります。



認定NPO法人エデュケーションエーキューブ

〒819-0043 福岡県福岡市西区野方1-19-33

Web <http://education-a3.net/>

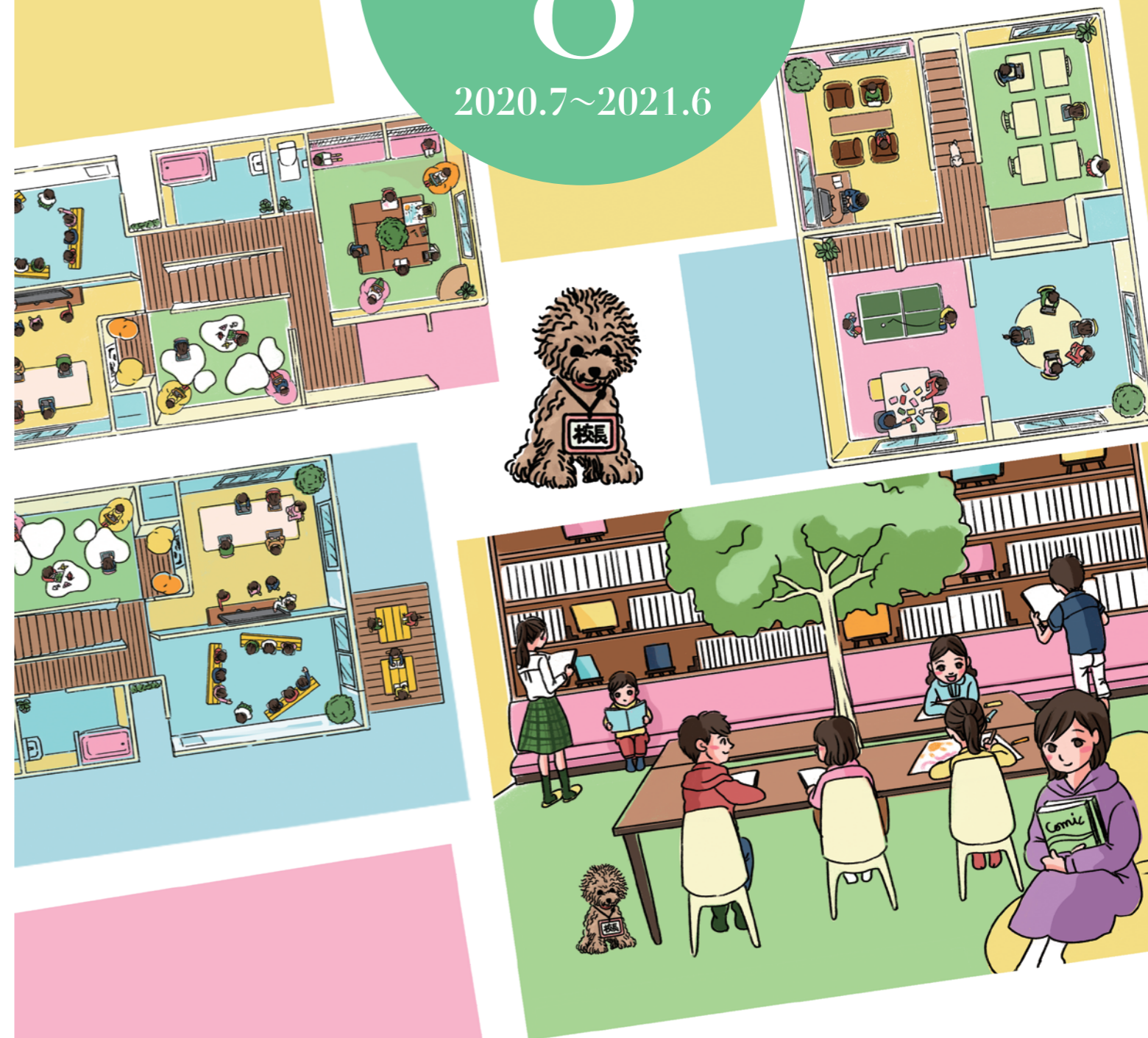
Email info@education-a3.net

<https://www.facebook.com/Education.A3>

年次報告書

第8期

2020.7～2021.6



Anyone can be anything!

～誰もが何にでもなれる社会を目指して～

認定NPO法人エデュケーションエーキューブ

年次報告書

第8期

2020.7~2021.6

目次

- 01 年次報告書 2020.7~ 2021.6 [第8期]
- 02 ご挨拶
- 03 私たちのミッションとロジックモデル
- 05 私たちが取り組む社会課題
目に見えにくい子どもの貧困
- 06 私たちが取り組む社会課題
学ぶ権利を奪われている子ども達
- 07 多機能型学習拠点「スタディプレイス」事業
- 09 特別奨学生制度
- 10 私たちが応援している子ども達
- 11 第7期の取り組み
- 12 収支報告
- 13 ご支援のお願い

様々な形でご支援いただいた皆さまに
心より感謝申し上げます。

ご挨拶

学校の代わりに通える「オルタナティブスクール」を目指して

認定NPO法人エデュケーションエーキューブの活動へのご理解とご支援、誠にありがとうございます。

第8期は、前期から引き続き、新型コロナウイルスとの戦いの1年でした。8期中は、非常事態宣言発出時にも学校は休校になりませんでした。子ども達の安全に配慮し、感染拡大フェーズでは積極的にオンライン対応を実施しました。一人一台のiPadの体制を整備し、オンラインで学びや遊びを子ども達に届けることができました。こうした対応により、スクール内でのコロナウイルス感染者を出さずに済みました。

10月に開校した3番目のスクール「スタディプレイス春日原校」も、スタディプレイス最大の旗艦校として、順調に立ち上げることができ、福岡県内では拠点数・生徒数で最大のフリースクールとして活動してきました。今期は、これまでのスクール運営に関するノウハウを提供し、日本全国にオルタナティブスクールを作るためのプラットフォーム事業への展開を本格化していきます。

私たちは引き続き、誰ひとり取りこぼさない社会を実現するため、既存の学校に変わる選択肢となる“パブリックなオルタナティブスクール”として事業を展開していきたいと思っています。



代表理事 草場 勇一

コロナ禍という危機の中、もがき苦しんでいる人たちがいます。支援が届かずに、益々格差が広がっている状況も生じています。戦後の混乱の最中、私の父は経済的理由により大学を諦めざるを得ませんでした。危機時に最も影響を受けるのは弱者です。教育機会だけはそうあってはいけないと思います。

幸いにして弊社では設立当初からITC活用を謳っており、早期にオンラインでの取り組みを実行し、オフラインでもオンラインでもしっかりと子どもたちに機会を提供することができました。またクラウドファンディングの手法により、新しい教室の開校もできました。

数年前には想定もしていなかった事に挑戦を続けています。弊社で支援している子どもたちもスタッフも日々挑戦です。皆様からの日々のご支援に感謝申し上げますと共に、子どもたちの挑戦、その先にある夢の実現を応援していただけますと幸いです。



副代表理事 佐村 礼二郎
エー・アイ・キャピタル株式会社
代表取締役社長 CIO

理事



竹井 雅文
修学館 元館長



伊藤 尚毅
アント・キャピタル・パートナーズ株式会社
マネージングパートナー



原口 唯
株式会社YOUI
代表取締役

正会員 (五十音順)

伊藤 雅浩 さま
シティライツ法律事務所
弁護士

原口 唯 さま
株式会社 YOUI
代表取締役

増山 秀信 さま
株式会社 StoreHero
取締役

渡邊 康治 さま
Hello Tomorrow Japan
Director

伊藤 尚毅 さま
アント・キャピタル・パートナーズ株式会社
マネージングパートナー

小村 富士夫 さま
株式会社Jスタイル
代表取締役

見満 周宜 さま
Yosemite LLC
代表

山本 教貴 さま
山本公認会計士・税理士事務所
公認会計士/税理士

佐村 礼二郎
エー・アイ・キャピタル株式会社 代表取締役社長 CIO

草場 勇一
NPO法人エデュケーションエーキューブ 代表理事

誰もが何にでもなれる 社会を目指して

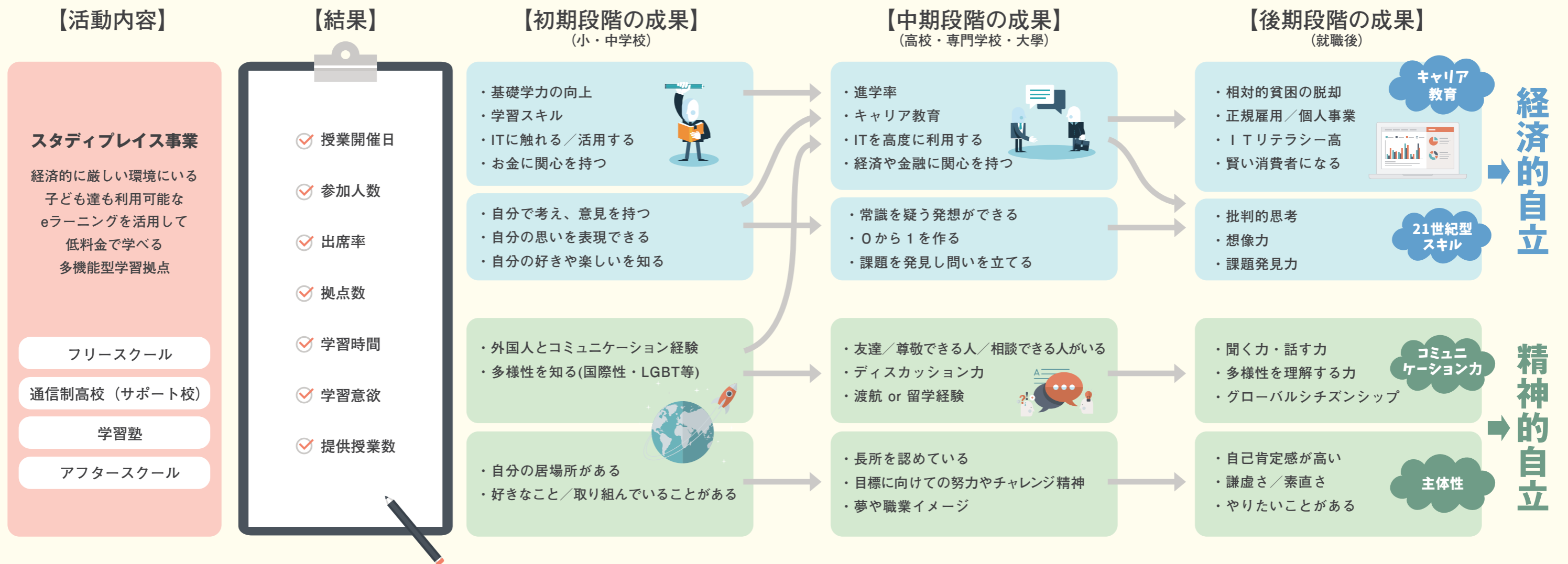
Anyone can be anything!

努力すれば誰もが自分の目標や夢を実現できる社会

日本の子ども達の約7人に1人は相対的貧困状態にあり、十分な教育や体験の機会が得られていません。エデュケーションエキューブはICTを教育分野に活用し、eラーニングを活用した学習支援や社会で必要となる新しい学びの機会を通じて、子ども達が自分の夢に向かって積極的にチャレンジできる社会をつくります。

Logic Model ロジックモデル

ミッションを実現するためのロジックモデル（シナリオ）

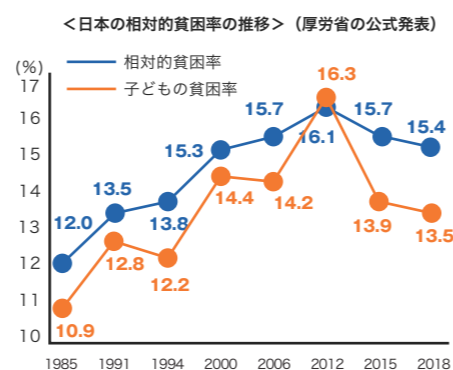


目に見えにくい 子どもの貧困

貧困や格差の問題は、途上国の問題という印象が強いかもしれませんが。しかし日本にも、最低限の衣食住は満たせても、教育・体験・人との繋がりなどの格差により、将来の可能性を制限されている“しんどい子ども達”が存在しています。

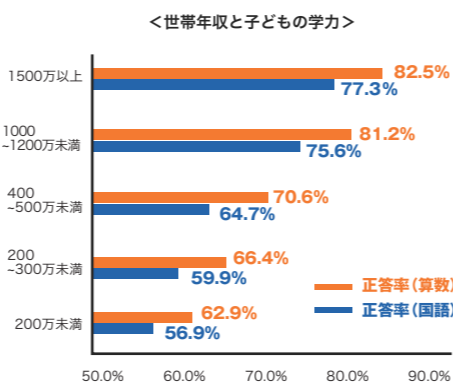
01 目に見えない貧困に苦しむ子ども達

日本の相対的貧困率は2012年以降は減少傾向にあるものの、引き続き、13.5%、7人に1人の子ども達が相対的貧困状態におかれています。なかでも、日本はひとり親世帯で親が就業している家庭の子どもの相対的貧困率においてはOECD諸国の中でも最下位レベルにあり、見えない貧困が深刻化しています。



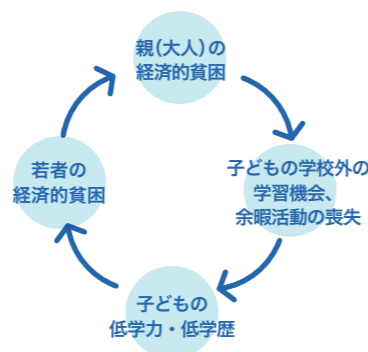
02 所得格差による子どもの学力・機会格差

世帯収入は学力と非常に高い相関関係にあります。これは、他の子ども達のように塾に通わせる余裕がないことや、落ち着いて勉強できる家庭環境がないこと、そしてより低年齢のうちに家庭で培われる生活習慣や基礎的な学力が不足することによるものです。子どもの学力格差は進学面での格差につながり、将来の収入格差にもつながっています。



03 世代を超えた貧困の固定化

家庭の経済格差は、子どもから学習の機会やさまざまな体験活動の機会を奪うことにつながります。教育機会に恵まれなかったことで低学力・低学歴になってしまった子どもは、大きくなったときに所得の低い職業につかざるを得なくなり、貧困が世代間を超えて連鎖し、固定化しています。



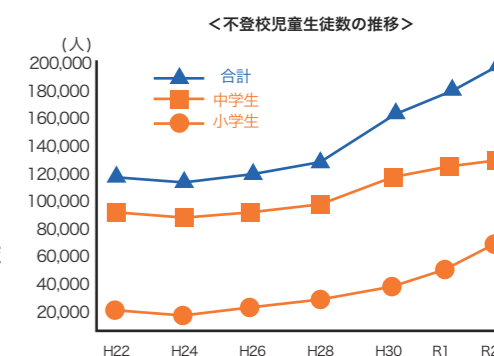
出典：厚生労働省(2020)「2019年国民生活基礎調査 結果の概況」、「生活保護受給世帯出身の大学生等の生活実態の調査・研究」

学ぶ権利を奪われている 子ども達

従来型の教育が合わずに学校に通えない子ども達が増加しています。日本には義務教育を受ける場所は学校しかありません。子ども達の学ぶ権利を保障するためには学校以外の多様な選択肢が求められています。

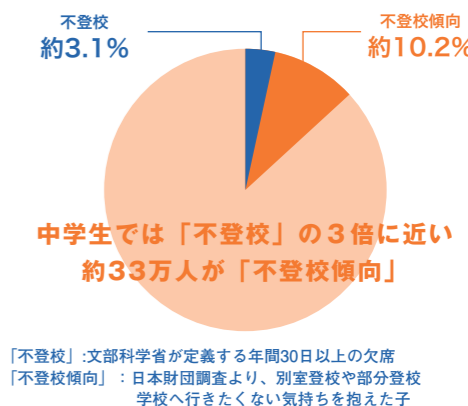
01 不登校数

文科省調査では、小・中学校の不登校児童生徒数(30日以上欠席)は、19.6万人、不登校児童比率は2.1%であり、うち、約60%の12万人が90日以上学校を休んでいて義務教育を受けているとは言えない子ども達となっています。文科省の調査には、学校には通っているものの授業を受けることができていない子どもたちは含まれていません。



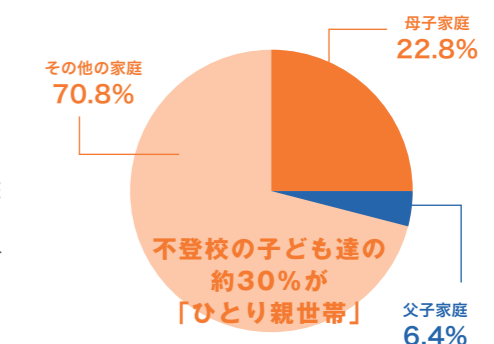
02 隠れ不登校の問題

子ども達から直接聞いた日本財団の調査においては、学校の校門までしか行けないケースや、教室外の保健室や別室に登校する「部分登校」、教室には入れるものの他の生徒と違うことや授業にまったくついていくことができない「仮面登校」を含めると、不登校の3倍に近い33万人が「不登校傾向」にあります。



03 貧困と不登校の関係

不登校の子どもたちが二十歳になった時に行われた当時の家庭状況に関する調査では、不登校の子どもたちの約30%がひとり親世帯の子ども達でした。また、当時の家庭生活(経済状況)について、「やや苦しかった」や「苦しかった」と回答した割合が28%と高い数字となっています。現在、フリースクールの授業料には公的負担がなく、全額が家庭負担となっています。フリースクールの全国平均の授業料は月額33,000円であり、保護者の経済的負担が大きい状況です。



出典：日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査」



スタディプレイスの様子

事業内容

多機能型学習拠点「スタディプレイス事業」

経済格差に起因する教育や体験機会の格差是正を目的に、経済的に厳しい環境にいる子ども達も利用可能な、低料金で学べる多機能型学習拠点「スタディプレイス」を展開しています。小学生から高校生を対象に、アフタースクール・学習塾・フリースクール・通信制高校として子ども達をサポートすることで、幅広い年齢の子ども達に対し、社会で自立していくために必要な多様な学びの機会を提供しています。

学習塾・アフタースクール

学習塾ではICTを活用し、自分の学力に合わせて、子ども達が主体的に自ら学ぶ力をつけることを目指しています。アフタースクールでは、英語教育が始まる前の子ども達を対象に、ゲームを使って英語にたくさん触れる機会を提供しています。

フリースクール

「学校は苦手だけど学習はがんばりたい」と思う学校に通えない子ども達を応援しています。学校の学習に加えて、ディスカッション、IT教育、マナー教育、キャリア教育などを行い、社会に出てからも役立つ学びの機会を提供します。

通信制高校

沖縄にある通信制高校「八洲学園大学国際高等学校」の高校卒業資格を取得することができます。小中学校の振り返り学習や社会に必要な新しい学び、体験学習を取り入れています。

スタッフ紹介



佐藤 和己

大学時代には、塾講師、不登校児童生徒への学習支援・余暇活動支援、福岡県田川郡添田町学習支援事業「英峰塾」の学生代表を経験。好きなことは古着・ゲーム・バイクや車でかけること。社会福祉士。



安川 由莉

大学時代には、インド留学、国際ディベート大会への出場するなどグローバルな活動を経験。TOEICのスコアは815点。アルバイトで英語塾講師を経験。好きなことは野球観戦とイラストを描くこと。

当事業は「大和証券グループ 輝く未来へ こども応援基金」「NTTドコモ市民活動団体助成事業」の支援を受け実施しています。

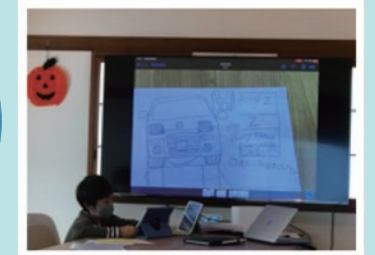


ICTを活用した個別学習



子ども達にはひとり一台のiPadを準備し、自分の目標や学力レベルに合わせて自分のペースで学ぶ個別最適化された学習環境を提供しています。eラーニングでの学習によって生徒たちが自ら計画を立て、自ら学ぶ力を養い、基礎学力を身につけています。

興味関心を深める学び



教科学習だけでなく、子どもたちの興味関心を深めて課題解決の力をつけるための探究学習を行なっています。子ども達は好きなことや興味関心から、調べたいテーマや疑問に思う問いを立てて、自分の力で調べ、最後は発表まで行っています。

キャリア教育



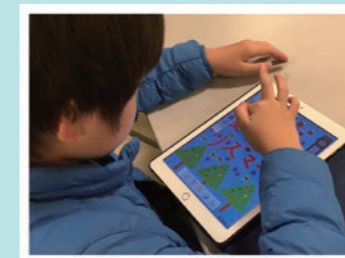
子どもたちが将来のキャリアイメージを持つため、仕事について調べたり、社会で活躍している大人の話をお聞きします。アパレルブランドの「GAP」さんとは毎年フリーマーケットを開催しており、子ども達はスタッフより寄付していただいた古着をスタッフと一緒に販売しています。

グローバルシチズンシップ教育



次世代を担う子ども達の将来の可能性を拓くため、日本だけでなく海外について興味・関心を持てるような機会を提供しています。海外の国々と実際にビデオ通話を繋いだり、Google Earthで様々な場所を調べたりしました。また、英語に親しめるようにゲームを通じた学びにも取り組みました。

クリエイティビティ



AI時代に必要となる0から1を生み出す能力を育むため、レゴを使った創作活動、プログラミングでの作品制作、STEM教育カリキュラムの実施、音楽体験など、創造的な活動に取り組みました。

体験活動



子ども達に教科学習にとどまらない様々な体験を提供するため、月に1回のペースで校外活動を実施しています。今回は、大学・テレビ局の見学、博物館・美術館への訪問、デイキャンプ・スポーツ大会など、多岐な活動に取り組みました。

特別奨学制度 利用者の状況

これまでの利用者のアンケートから、奨学制度が経済的に厳しいご家庭を支えることができていることがわかりました。



特別奨学制度

スタディプレイスでは、経済的に厳しいひとり親世帯や生活保護世帯の子ども達を対象に授業料の50~70%を免除する奨学制度を設けています。

日本において、ひとり親世帯（母子家庭）の平均世帯年収はわずか197万円に留まっています。さらに、母子家庭の71%が収入200万円未満と、子どものいる世帯の平均に比べ、経済的に非常に厳しい状況に置かれています。ひとり親世帯（母子家庭）の保護者の80.6%が働いているにもかかわらず、ひとり親世帯の相対的貧困率が高く、日本のひとり親世帯の子どもの貧困率はOECD35ヶ国の中でワースト1位となっています。

スタディプレイスの特別奨学制度は、児童扶養手当を受給しているひとり親世帯や生活保護世帯、また特別な事情で経済的困難を抱えている世帯を対象に、授業料の50~70%を免除しています。



ひとり親奨学制度利用者の声

学校へ通えずずっと家にいる為、学校で出来ない事を家庭で補ったり、発達障害の特性から様々なこだわりや感覚過敏があり、見えないお金がかかります。まだ小学生なので、ある程度側に付いてあげなければならない事から、仕事もセーブせざるを得ません。そんな中での特別奨学制度は、私たち家族にとっても、受けさせて頂いているご家庭全ての子どもさんの未来の選択肢が増えました。お金が全てではありませんが、お金がなければできない事や経験が沢山あります。本当に有り難く感謝しております。



月謝を気にせず、すぐに通わせる事ができ、負担が軽減されました。経済的な理由でフリースクールに通わせる事を諦めている方にこの制度が伝わり、子ども達の学びの機会が確保されて欲しいと思います。ご支援ありがとうございます。

姉妹での利用なので、とても助かっています。



学校では体験できない事や個別授業であったりするのに、奨学金制度まであってすごく助かると思いました。

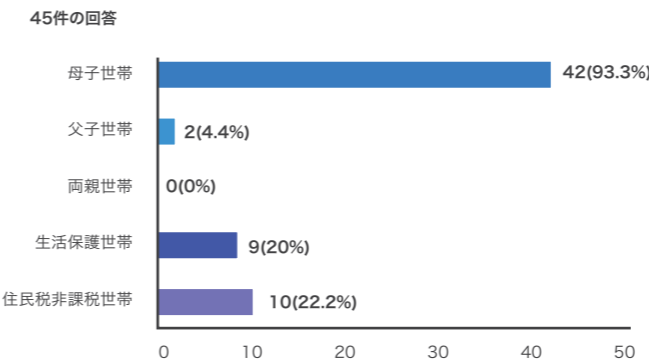
本当に助かっています。スタディプレイスに通ったからこそ、娘の将来に希望を抱けるようになりました。凄く感謝しています。



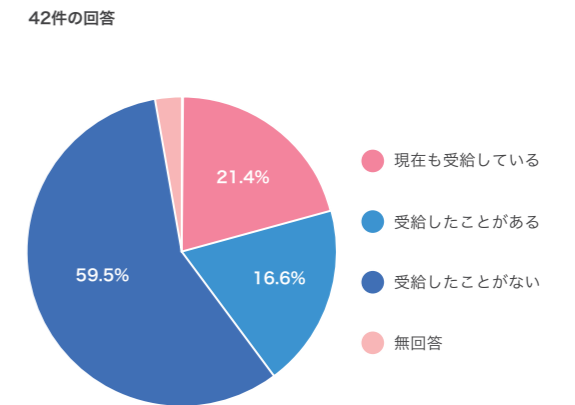
世帯背景

ひとり親世帯が97.7%を占め、養育費を受給したことがない世帯が59.5%

【現在もしくは奨学金制度利用時の世帯状況を教えてください】



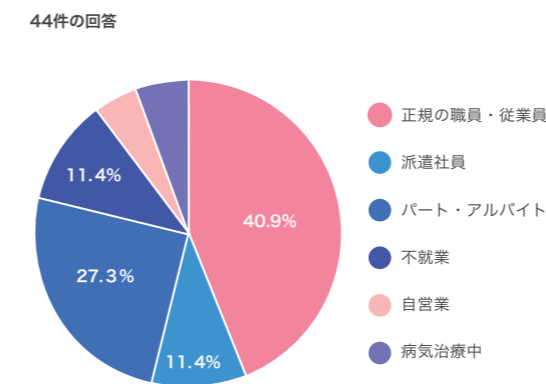
【養育費の受給状況について教えてください】



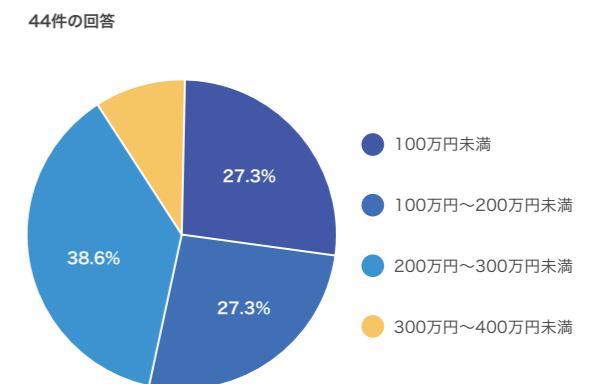
就業状況と世帯年収

就業している保護者が86%を占めるが、年収300万円未満が93%

【現在もしくは奨学金制度利用時の就業状況について教えてください】



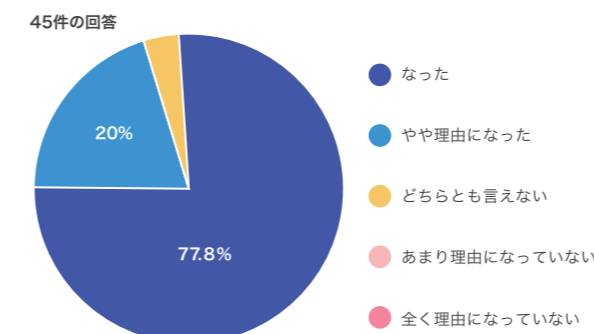
【昨年度の平均収入について教えてください】



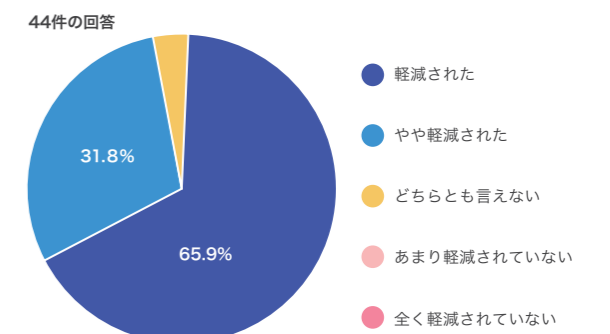
奨学制度の影響

奨学制度が通う理由になり、経済的負担を軽減

【奨学制度があることはスタディプレイスに通う理由になりましたか?】



【奨学制度により、経済的負担は軽減されましたか?】

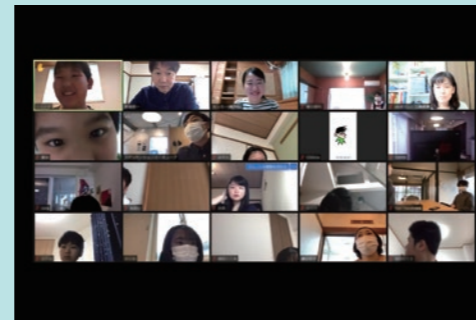


出典：2019-2021 特別奨学制度利用者アンケート（45回答/重複あり）

第8期のトピック

01 コロナ禍でのオンラインへの取り組み

新型コロナウイルス感染症の流行状況に合わせ、スタディプレイスでは強みであるオンライン学習の提供により、子ども達に安心して安全な学びの環境を継続的に提供し続けてきました。生徒一人ひとりにタブレット端末を割り当て、在宅でのオンライン学習や教室でのオンライン／オフライン学習を組み合わせる等、状況に応じて方法を切り替えながらスクールを運営することができました。また、緊急事態宣言が発出された夏休みには、3校合同のイベントをオンラインでの夏祭りに切り替えて実施するなど、コロナ禍にあっても子ども達が生き生きと学び、遊べる工夫を様々な重ねて提供しました。



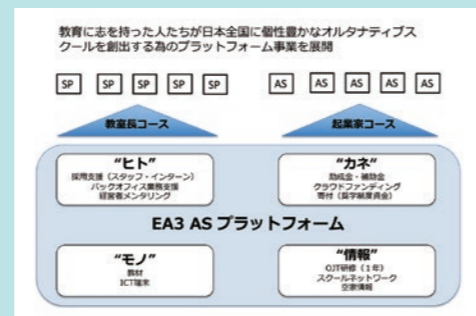
02 スタディプレイス春日原校の本格稼働

昨年10月1日、スタディプレイス3号教室である春日原校を福岡県大野城市に新規開校しました。開校により、福岡市周辺の大野城市や春日原市の子ども達の受け入れが進み、各市からも出席認定を受けられるようになりました。また、小学1年生の4月の入学時点からの受け入れも開始し「オルタナティブスクール」としての位置づけを確立し始めました。春日原校の開校にあたっては、初めてクラウドファンディングに挑戦し、ご支援により大型モニターライブラリー等の整備、そしてwithコロナ時代にも安心できるガーデンスペースの整備ができ、魅力的かつ安心・安全な学びの環境を整えることができました。



03 オルタナティブスクールのプラットフォーム事業

貧困や発達障害など何らかの理由で義務教育が受けられずにいる、全国のすべての子ども達が、学校に代わる選択肢であるオルタナティブスクールにアクセスできるようになるために、「2030年までに日本全国に100校のオルタナティブスクールをつくる」という目標を掲げています。その実現に向け、全国のオルタナティブスクールを作りたい人を支援するためのプラットフォーム作りを進めています。全国展開の第1歩目として、2022年度中に、山形県天童市に初の福岡県外校となるスタディプレイス天童校が開校予定であり、現在準備を進めています。



収支報告

活動計算書 (2020年7月1日~2021年6月30日)

科目		金額 (円)
経常収益	受取会費	正会員受取会費 100,000
	受取寄付金	受取寄付金 5,733,313
	受取助成金等	受取助成金・補助金 11,020,196
	事業収益	スタディプレイス事業収益 12,557,100
	その他収益	受取利息/雑収益 876,414
	経常収益計	30,287,023
経常費用	事業費	人件費 16,865,583
		教材費 508,460
		業務委託費 1,386,305
		賃料 3,447,800
		消耗品費 1,106,165
		その他事業費 5,538,646
	管理費	人件費 684,355
		業務委託費 382,470
		通信運搬費 18,620
		その他管理費 21,956
	経常費用計	29,960,360
	当期経常増減額	326,663
	税引前当期正味財産増減額	249,997
	法人税、住民税及び事業税	158,521
	当期正味財産増減額	91,476
	前期繰越正味財産額	4,504,189
	次期繰越正味財産額	4,595,665

【解説①】
収入は前期比156%の30,287千円となりました。春日原校の新規開校に伴い、事業収益が12,557千円（前期比147%）と増加し、全体の42%を占めています。助成金・補助金は、継続支援の助成金に加え、新規の助成金を獲得し、全体の36%を占める11,020千円（前期比203%）になりました。寄付金は、個人の大口寄付の増加により5,733千円（前期比179%）と大幅に増加しています。

【解説②】
費用は前期比156%の29,960千円となりました。スタディプレイス春日原校の新規開校やオンラインコース開校など事業拡大に伴い、人件費が16,865千円（前期比144%）となり、全体の56%を占めています。拠点数の増加により、賃料が3,447千円（前期比150%）、消耗品費が1,106千円（前期比340%）とそれぞれ増加しました。

【解説③】
貸借対照表については、スタディプレイス春日原校の新規開校による教室整備や全生徒分のタブレット端末の購入により、固定資産が増加し、6,863千円（前期比281%）となりました。

貸借対照表 (2020年6月30日 現在)

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額 (円)	科目	金額 (円)
流動資産	現金・預金 14,351,089	流動負債	未払金 1,088,836
	売上債権 1,729,260		前受金 1,855,974
	その他流動資産 642,614		預り金 504,860
	流動資産合計 16,722,963		未払い法人税等 697,300
固定資産	(有形固定資産)	流動負債合計	4,146,970
	建物付属設備 3,577,537	固定負債	長期借入金 14,844,000
	什器 備品 2,176,135		固定負債合計 14,844,000
	敷金 1,110,000	負債の部合計	18,990,970
	固定資産合計 6,863,672	正味財産の部	
資産の部合計	23,586,635	正味財産	前期繰越正味財産額 4,504,189
			当期正味財産増減額 91,476
			正味財産計 4,595,665
		正味財産の部合計	4,595,665
		負債・正味財産の部合計	23,586,635

活動計算書及び貸借対照表が、エデュケーションエーキューブの2021年6月30日をもって終了する事業年度について業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財政状態を適正に表示しているものと認めます。



監事 伊藤 雅浩

シティライツ法律事務所
弁護士



監事 山本 教貴

山本公認会計士・税理士事務所
公認会計士 / 税理士

ご支援の お願い



**認定NPO法人
エデュケーションエキューブへの
寄付は、税制優遇の対象になります。**

個人の 皆様へ

社会的投資として次世代を担う 子ども達を応援してください！

エデュケーションエキューブは、2016年8月に認定NPO法人の認定を頂きました。認定NPO法人は、個人寄付に対して最大約50%が戻ってくる税制優遇が適用されます。認定NPO法人として活動を継続していくためには毎年「3,000円以上の寄付者が100人以上」という条件をクリアする必要があります。組織の事業基盤を固め、多くの子ども達の支援を可能にするためにも、寄付でのご支援をお願いいたします。

定額寄付で継続的に活動を支援する

定額寄付は、毎年3,000円からの“アニュアルサポーター”と毎月500円からの“マンスリーサポーター”が選べます。寄付金額は、アニュアルは毎年3,000/5,000/10,000/30,000円から、マンスリーは毎月500/1,000/2,000/3,000円から選ぶことができます。決済方法は、クレジットカード決済（VISA/MASTER）もしくは銀行振込からお選びいただけます。

任意の金額をお好きなタイミングの寄付で支援する

金額と寄付のタイミングを任意にお選びいただくこともできます。寄付の方法は、クレジットカード(VISA/MASTER)での決済もしくは銀行振込からお選びいただけます

ご寄付の方法

1. クレジットカードでの決済

下記URL・QRコードよりお手続きください。

VISA/MASTERカードでご決済頂けます。

<http://education-a3.net/support/kifu.html>

継続のご寄付

任意のご寄付

お手続きは
こちら▶



2. 銀行振込

金融機関：福岡銀行 今宿（いまじゅく）支店（264）

講座情報：普通口座 451973

口座名義：NPO法人エデュケーションエキューブ

継続のご寄付

任意のご寄付

お手続きは
こちら▶



【寄付以外のご支援①】 電気の切り替えでの支援 ハチドリ電力



電気を使えば使うほど、自然エネルギーが増えていく
「ハチドリ電力」が環境に優しいしくみ

特徴1 CO2ゼロの 地球に優しい電気



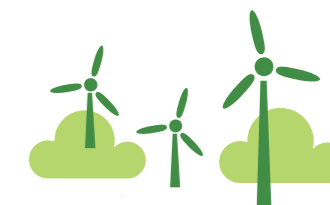
地球温暖化の原因となる二酸化炭素を出さない自然エネルギーを届けます。
※「CO2ゼロ」とはCO2排出係数ゼロのことを指します

特徴2 電気料金の1%が エデュケーション エキューブの支援に



電気料金の1%がエデュケーションエキューブの活動を支援します。

特徴3 さらにもう1%が 自然エネルギー基金に



使えば使うほど、風力や太陽光などの自然エネルギーの発電所が増えていくしくみです。

電気代もお得！

【例：3人家族の場合】



切り替えは簡単！

初期費用
0円

工事・立会
不要

印鑑・記入
不要

お申し込みは
こちら



【寄付以外のご支援②】 古本での支援 つなぐ書店

エデュケーションエキューブでは、つなぐ書店さんとタイアップし、古本で活動を支援できるようになります。つなぐ書店さんは福岡県南部の久留米市で発達障害の方々への就労支援を行なっている古本屋さんです。ご自宅に眠っている本、DVD、CDがございましたら、着払いにて本、DVD、CDをつなぐ書店さんに送って頂くだけで、買取価格がエデュケーションエキューブの寄付となります。

- ①箱に本をつめます（10冊以上から着払いで受け付けております）
- ②送付伝票の品名欄に「寄付先（エデュケーションエキューブ）」と記入します
- ③電話で集荷依頼をし、着払いで荷物を送ります（3箱以上の場合ヤマト運輸の【ヤマト便】での依頼をお願いしております）

【古本を寄付】



寄付して貢献

【古本の集荷・仕分け・査定】



つなぐ書店については
こちら



【団体活動のための費用へ】

